

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

# 直東学園ニュース

直江津東中学校校区すこやかネットワークだより

令和2年度 第8号  
令和3年1月25日発行  
< 発行・編集 >  
直東学園 事務局  
〒942-0041  
新潟県上越市安江 282-1  
(上越市立直江津東中学校内)  
TEL : 025-543-2729  
FAX : 025-543-4150  
E-mail : higashi-cs@jorne.or.jp

## 令和2年度 同和教育部の取組

直東学園（直江津東中学校区）同和教育部では、中学校区共通の研究主題を「日常生活の中にある差別を見抜き、差別を許さない子どもの育成」と位置付け、同和教育の一層の充実を目指し、以下の取組を行っています。

### 1 同和教育部 年間活動計画の協議と確認

6月9日（火）に、保倉小学校校長室で行いました。各校の同和教育推進委員から集まっていたいただき、今年度の活動計画の協議を行い、取組内容の確認を行いました。

### 2 同和教育基底計画の見直し

昨年度の基底計画に沿った各校の実践の成果と課題から、各学年の重点目標及び資料について引き続き、見直しを行っています。各校で分担学年を決め、実践を通して、資料の有効性や課題を明らかにしながら、年度末の推進委員会で基底計画の見直しや資料の検討を行います。



### 3 基底計画に基づいた授業実践レポートの取組

各校で互いの実践を活用することができるように、実践した授業実践を資料データ（指導案、板書例など、形式にとらわれない）として、共有フォルダに保存をしていきます。また、気軽に活用できるフォルダの整理も進めていく予定です。

授業者が困らないように推進委員が中心となって、実践しやすい環境の整備を進めていきます。また、お互いに授業を見合うことは難しいので、お互いに授業記録を見合うことを通して、授業実践の質の向上を目指します。

各校においては、推進委員を中心に、児童の実態に即した同和教育の推進に取り組んでいます。年1回程度、同和教育の授業公開を行い、保護者・地域の皆様からもご参観いただき、子どもと一緒に考える場を設定しております。

また、今年度の同和教育部の研修は、教職員全員が揃っての研修ではなく、学校ごとでの実施といたしました。各学校の課題に即した研修がなされたと考えております。特に、新任者にとって「部落問題学習の進め方」「なぜ部落問題は解消されないのか」などの同和教育を進める上での知っておかなければならない大切な基礎事柄をお教えたいただき機会がとれたことが特によかったと思っております。今後も、参加者のニーズに合わせた研修を行って参りたいと思っております。しかし、当初予定されておりました「第72回全国人権・同和教育研究大会 新潟大会」が来年に延期され、来年度の開催を待たなければならなくなりました。

今後も、同和教育部では、同和教育の一層の充実を図り、日々の教育活動に根差した取組を進めていきます。そして、これらの取組を通して直東学園の子どもも大人も、「一人一人の人権の尊重」というものを見つめ直してもらおう契機になればと思っております。すべての人が「幸せ」を実感できる社会の実現をめざし、大人、子どもの区別なく行動していくことが求められていると思っております。

## 北諏訪小学校の取組



北諏訪小学校では、「直江津東中学校区同和教育基底計画」に基づき、授業を行っています。実践の様子をまとめることで、より実態に即した指導ができるように、また、指導案や板書計画などを蓄積しています。職員研修としては、夏季休業中に現地学習会に参加するとともに、社会教育指導員の村山学先生を講師に、同和教育の研修会を開きました。

11月には、人権教育強調月間に合わせて、授業参観での同和教育の授業公開や「絆集会」を行いました。

1年生の授業では、「決めつけ」が他人事やお話の中でのことではなく、自分もしてしまうことだと気付きました。そして、「これからは、友だちの話をよく聞き考える」「周りの人の話だけで決めつけない」など、自分事として考える記述がたくさんありました。

絆集会に向けての準備活動は、歌プロジェクトや看板プロジェクトなど、5つの縦割りグループで行いました。異学年で協力して活動することを通して、相手を思いやる気持ち、誰とでも仲良く活動する力などが育ちました。集会では、昨年度に続き、オフィス・ユー・アイ・コミュニケーション代表の金巻知子先生を講師に、仲間づくり活動を行いました。全校で大きな一つの円を作っての活動、縦割り班のメンバーと一緒に走り抜ける長縄跳びなど、「みんなで心を合わせる活動」をいくつも体験し、「気持ちが一つになるとうれしいこと」を実感しました。とても温かく有意義な時間になりました。



プロジェクト活動の様子



絆集会の様子

## 保倉小学校の取組



### 【授業での学びを実生活に生かそう】

直江津東中学校区同和教育基底計画に基付いて、人権教育、同和教育の学習を行っています。参観日には、授業を公開し、家庭でも人権について考えていただく機会となるようにしています。「差別・いじめをしていい理由などない」「差別・いじめされている場面を見たら、見逃してはいけない」など、授業の中で考え深めたことが、子どもたちの日常の行動に結びつくよう、見取りと指導を続けています。「全校のみんなが幸せにすごす」ことが保倉っ子のめあてになっています。

### 【いじめ見逃しゼロ集会で考えよう】

「いじめ見逃しゼロ集会」で「みんなで考えようタイム」を設け、「①なぜ、暴言や悪口、あだ名を言うの？ ②言われた人の気持ちは？ ③暴言や悪口、あだ名をなくすためには？ ④自分にできることは？」を縦割り班で話し合い発表しました。その場限りではなく、自分で考えたことや班で決めたことが今後の言動に表れてくるように支援していきます。

### 【友達によさを見つけて伝えよう】

「お互いを大切にできる子ども」を育てたいと考え、「ハートフルカード」で心温まるメッセージを送り合う取組を継続しています。「ありがとう」「いいね」の気持ちを言葉にして、掲示しています。行事の際には、保護者や地域の方々からも書いていただき、児童玄関前に掲示しています。読みながら、嬉しそうにしている子どもたちです。これからも「一人一人が大切な存在なのだ」ということを伝えていきます。

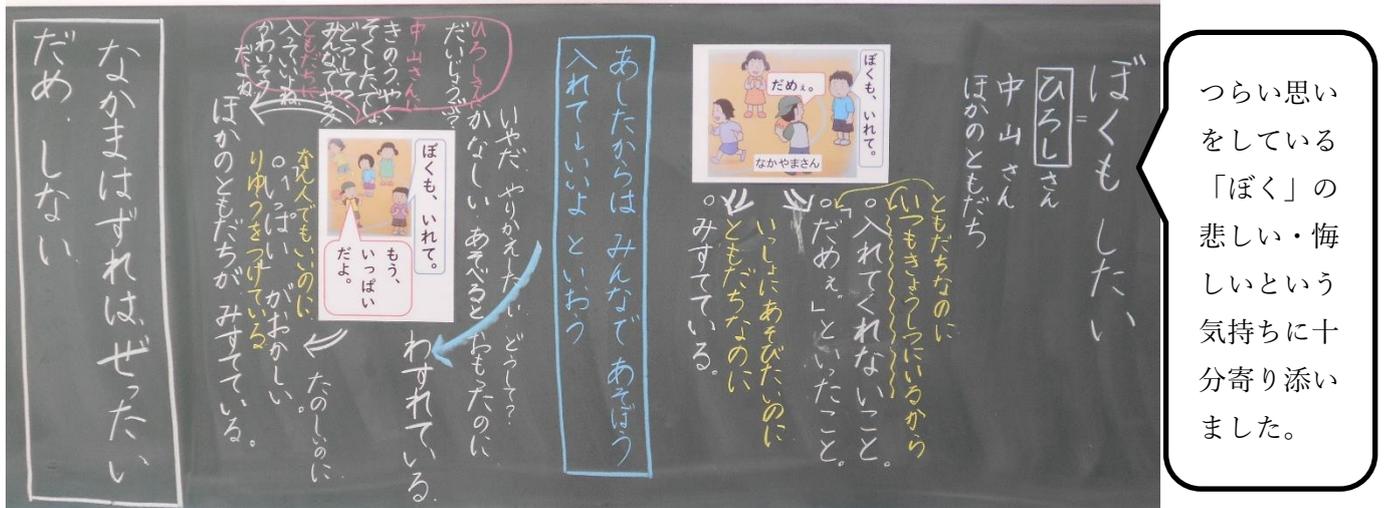


## 有田小学校の取組



人権教育、同和教育研修部として、「差別の現実に学ぶ現地学習会」「直江津東中学校区同和教育  
基底計画」に基付き、年間最低3回（学期に1回）の同和教育の授業を実施しています。

### 人権強調週間に行われた授業実践 ～1年生「ぼくもしたい」～



つらい思い  
をしている  
「ぼく」の  
悲しい・悔  
しいという  
気持ちに十  
分寄り添い  
ました。

### 人権を考える講話会についてのお知らせ

1月21日（木）の学習参観後には「人権講話会」も行います。これは大人に向けた講話会です。コロナ禍の影響もあり、今回は地域の皆さんへのお声掛けはせず、保護者の皆さんのみへのご案内となりました。しかしながら、子どもも大人も誰もが安心して生活できる社会、共に生きる社会を築いていくためには、私たち大人の役割が重要であることに変わりはありません。身近な人権問題、同和問題について、一緒に考えませんか。

## 春日新田小学校の取組



「認め合い進んで学び合う学年・学級づくり」を重点目標に掲げ、「よりよい人間関係づくり」と「正しい人権感覚を育む同和教育の授業の充実」に取り組んできました。

いじめを生まない、仲良く協力し合って生活するための学級の約束を話し合い、学級の約束を守ることができているかどうか、随時話し合いの場を設けました。また、全学級年間5回の授業実践を行い、年間2回の学習参観の場も設けました。11月は、人権強調旬間を設け「差別をしない、差別を許さない」意識が高まるようにしました。

### 6年生の授業実践

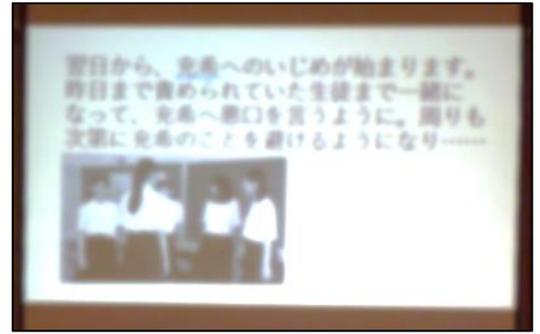
12月に講師を招いて「部落差別問題」について考える人権教育、同和教育の学習を行いました。道徳や社会の学習を中心に1学期から「差別問題」について学習を進めてきました。「差別を許さない」「差別をしてはいけない」という思いを高めていきながら今回の学習を迎えました。当日は、これまでの学習を振り返った後、講師の方から「部落差別」についてのお話をお聞きしました。真剣に思いを語る姿を目の当たりにして、子どもたちも真剣に聞いたり、考えたりする様子が見られました。最後に、心と心でつながり合える「心友（しんゆう）」の関係を築いてほしいというメッセージをいただきました。子どもたちには、“心友の関係づくり”と“差別をしない”という心”をしっかりと持ち続けて育ててほしいと思います。



## 直江津東中学校の取組



人権教育、同和教育の取組として、生徒会を中心に「いじめ見逃しゼロスクール強調月間」を11月に実施しました。生徒会総務をはじめとした専門委員会から具体的な取組が計画され、応援委員会は毎日の下校時の放送で「いじめ見逃しゼロ」の呼び掛けを、生活委員会では「言われて嬉しい言葉、嫌な言葉アンケート」、広報委員会では「ふわふわ言葉ミニポスター」など多くの委員会が“いじめを許さない心”“他の人へ思いやりをもって接する心”などを高める取組を行いました。12月には生徒集会でこうした取組を改めて振り返るとともに、生徒会総務が「一歩踏み出す勇氣」と題した問題提起の劇や発表を行い、いじめについて深く考え、いじめ・差別を許さない思いを共に育てる機会となりました。



また今年度も「直江津東中学校区同和教育基底計画」に基づき授業を行っています。各学年で基底計画の内容をもとに、学年の実態に即した指導計画を検討し合い各学級で共通実践できる授業を行っています。



8月7日(金)に上越市教育委員会より講師として、全人教担当曾根原先生をお招きし、同和教育の進め方について、中学校での実践に即した内容で研修を行いました。今後の取組や課題についてより明らかにできたと考えています。



今年度も

直東学園

教育ハンドブック編集会議を

開催しました



12月3日(木)、各学校のPTA会長さんからご推薦いただいた5人の保護者の方と「直東学園 教育ハンドブック」の編集会議を行いました。この冊子は、小学校に入学予定の保護者向けに毎年発行し、各小学校の入学説明会での資料の一つとしています。

編集会議では、保護者の方が活用しやすいように、保護者目線での意見をお願いしました。それを編集に役立て、各学校からの変更と併せて、1月下旬には完成となります。

### 本誌の内容

- 1 地域に生きる子どもたちのために
- 2 小学校卒業までに身に付けたい7つの習慣
- 3 保護者、ご家族にお願いしたい  
具体的な日常のルール
- 4 学習の約束十か条 アウトメディアデー
- 5 直江津東中学校区生活のきまり
- 6 就学前のお子さんの社会生活をサポートします！
- 7 地域と子どもたちの安心安全を守ります！
- 8 地域が子どもたちの学習を応援します！
- 9 学校生活に欠かせない体操着やシューズ  
販売店の紹介・位置情報
- 10 校時表